

小児がん患児に関わる 診療看護師（NP）の実践と役割 —海外の文献検討を通して—

A Literature Review of the Nursing Practices and Roles of Pediatric Nurse Practitioners for Children with Cancer

新家勇希¹⁾・草野淳子²⁾・足立綾³⁾・井原健二⁴⁾

1) 訪問看護ステーションあかりば 診療看護師（小児・プライマリ）、2) 大分県立看護科学大学 小児看護学研究室、
3) 大分県立看護科学大学 小児看護学研究室、4) 大分大学 医学部 小児科学講座

要 旨

【目的】

海外のNurse Practitionerの小児がん患者への活動の実践と役割を明らかにすることを目的とする。それにより、日本の小児がん患者のケアにおける診療看護師（NP）としての役割を検討していく。

【方法】

CINAHL with Full TextとPub Medを用いて、1995年～2021年の海外文献を検索し、7文献を抽出した。文献から、Nurse Practitionerの小児がん患者におこなった実践に該当する記述箇所を抽出し、コードとした。抽出したコードをもとに、2名の小児看護研究者とともに分析し、サブカテゴリーおよびカテゴリーを作成した。

【結果】

分析の結果、【化学療法に関連した薬剤投与を実施する】【化学療法に関連した診療行為を実施する】【小児がん患者へのケアの提供を実施する】【患者の症状の判断を行い、治療を選択する】【小児がん治療に関連した教育的な関わりを実施する】【輸液ポンプの物品管理をおこなう】【治療に関する情報共有・提供をおこない、家族を含めた多職種と連携する】【学会や国内会議でNPの活動を発表する】の8カテゴリーが抽出された。

【結論】

海外のNurse Practitionerの小児がん患者への実践と役割は、医療的処置や診療行為にとどまらず、多岐に渡っていた。小児がん患者におけるわが国の診療看護師（NP）の役割として、がん治療における高度な医療的知識や技術を伴い、入院から退院後まで継続して患者を支えることが期待される。

Key Words：小児，診療看護師，小児がん，実践，役割

I. 緒言

わが国での小児がんは、年間2000～2500人の子どもが診断されており、これは日本の年間がん罹患数の全体のうち約2%と少ない¹⁾。また、小児がんは種類が多

いという特徴があり、白血病や脳腫瘍、悪性リンパ腫、神経芽腫、胚細胞腫など様々であり、希少性が高い疾患でもある。そのため、成人がん患者と比較して小児がん患者に対する医療支援体制は不十分である。しかし、第2期がん対策推進基本計画の中で、小児がん対策が初め

て盛り込まれたことから、2013年2月には小児がん拠点病院の指定が行われた²⁾。その後には拠点病院の取りまとめを行う小児がん中央機関が指定され、小児がん患者に対する支援体制が整備されつつある。

制度や臨床において、小児がん医療に携わる人材の需要や、求められる能力が高まっているにもかかわらず、医師総数における小児科医の割合は減少している³⁾。さらに、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を確保する目的で、政府主導で医師の働き方改革が行われ、医療関係職種の仕事範囲の見直しや、医師に対する時間外労働の上限規制が2024年4月より適用されるようになった⁴⁾。そのため、小児科医師のみで小児がん患者に対する医療の充実を図るには困難が予測されている。

森ら⁵⁾は医療の高度化のなかで、看護師に的確な患者の病態判断と合併症の予測判断を伴ったケア能力があれば、患者は後遺症が少なく、最短の治癒過程をたどることができ、在宅・外来・入院すべての患者のQOL (Quality of Life) 向上に繋がると述べており、小児がん医療の充実に診療看護師（NP）の可能性を唱えている。

しかし、国内文献における小児がん患者へ対する診療看護師（NP）の活動報告は明らかとなっていない。小児がん医療の責務が求められるわが国で、医療充実の一翼を担うと考えられる診療看護師（NP）の小児がん患者に対する実践を明らかにすることは、患者・家族のニーズの充足に繋がると考える。

国内での小児がん患者へ対する診療看護師（NP）の実践や役割が明らかではないため、本研究では、海外で小児がん患者へ対応をおこなうNurse Practitionerの実践に焦点を当てた。本研究の目的は、海外で小児がん患者への実践をおこなうNurse Practitionerについての文献を分析し、活動の実践と役割を明らかにすることを目的とする。それにより、日本の小児がん患者のケアにおける診療看護師（NP）としての役割を検討していく。

II. 方法

1. 用語の操作的定義

診療看護師（NP）：大学院の診療看護師（NP）教育課程を修了した看護師

Nurse Practitionerの実践：海外のNurse Practitionerが対象者に働きかける際のケアや行為、又はそれに関連した活動

2. 文献選定基準

文献選定基準は、国内で入手が可能なものから、研究対象とする論文を抽出した。文献分類は、原著論文に限り、Nurse Practitionerによる実践の記述が無い文献は除外した。内容として、Nurse Practitionerが小児がん患者に対しておこなった実践に関する事例であること、事例の対象者が小児（18歳以下）である、または小児を対象として診察をおこなっている病院であることの2つを満たす論文を抽出した。

3. 文献検索の手順

本研究では、海外の文献を検索するためにCINAHL with Full TextとPub Medを使用した。検索対象期間は1995年1月1日～2021年12月31日とし、言語は英語とした。

文献検索の結果、CINAHL with Full Textでは「nurse practitioner」and「pediatric cancer」で23件の文献が抽出された（検索日：2022年3月5日）。Pub Medでは「nurse practitioner」and「pediatric cancer」and「article」で125件の文献が抽出された（検索日：2022年3月3日）。重複した3文献を除いた全てのタイトル及び抄録を精読し、必要時はその本文を精読し、文献選定基準に合致する7文献を選出し、対象文献とした。対象文献を表1に示す。

4. 分析方法

1) 対象文献の翻訳、文献からのデータ抽出、カテゴリー化

文献の著者の意図と相違が生じないように留意しながら、文献全体の翻訳を試みた。翻訳した対象文献は、Nurse Practitionerが行った実践について記述内容を精読したうえで該当する記述箇所を抽出しコードとした。抽出されたコードについて類似した内容ごとに集約し、サブカテゴリーを作成した。さらにサブカテゴリーについて、関連する内容ごとに集約し、カテゴリーを生成した。その後、2名の小児看護学研究者とともに検討し、データ解釈の信頼性と妥当性を確保した。

表 1. 対象文献概要一覧

著者名/タイトル/雑誌名/国	対象/研究方法	事例要約
1 Nicole N.Zakak (2009)/Fertility issues of childhood cancer survivors: the role of the pediatric nurse practitioner in fertility preservation./Journal of Pediatric Oncology Nursing/アメリカ	がんサバイバーの妊孕性温存に関する文献/文献レビュー	小児がんの生存率は向上しており、がん治療の長期的影響を認識することが重要となってきた。なかでも、小児がん経験者の妊孕性温存の問題は重要な研究分野となっており、安全で、効果的な運用に向けて、多くの研究をおこなう必要がある。Pediatric Nurse Practitionerはがん治療がもたらす長期的な影響について認識し、妊孕性温存の選択肢や倫理的問題を理解して患者を支援していく必要がある。
2 Corry van den Hoed-Heerschop (2005)/Development of the role of the pediatric oncology nurse practitioner in the Netherlands/Journal of Pediatric Oncology Nursing/オランダ	オランダ国内で働く Nurse Practitioner/活動報告	オランダには小児腫瘍学専門のNurse Practitioner (NPPO) が存在しており、国内4施設で7人が働いている。Nurse Practitionerの初期の導入は、医師不足を補ったり、医療連携を強化する目的であった。しかし、近年のNurse Practitionerの役割は、早期退院し家庭でも継続したケアを要する子どもの支援や、保護者へのケア指導を円滑におこなうことに移り変わってきている。今後Nurse Practitioner導入の有効性を評価するために、子どもや親から意見を収集する必要がある。
3 Matteo Amicucci, Italo Ciaralti (2021)/Nurse Practitioner Management of a Blinatumomab Infusion Program: Impact on Patient Safety and Quality of Care/Infusion Nurses Society/イタリア	3次病院で勤務する高度実践看護師/活動報告	イタリアの三次病院でブリナツモマブによる治療を受ける小児患者の管理方法について、4年間にわたる当院の活動を報告する。Nurse Practitioner (イタリアの研究実施病院の仮称) をブリナツモマブ治療のコーディネーターとすることで、安全な輸液ポンプの選定や管理、最終的に患者の自宅退院を促進する役割も果たした。Nurse Practitionerはブリナツモマブ管理の専門家として、研究対象施設では認められるようになっていく。薬液投与時の輸液ポンプのトラブルによる救外受診や不要な入院が減少し、患者にとって有益なものとなっている。
4 N.T.M.Kok, A.C.Ligthart-Beukhof, M.D.van de Wetering (2019)/Chemotherapy intravenously in children with cancer at home, the nurse practitioner makes it possible!/Support Care Cancer/オランダ	在宅で化学療法を受ける11人の親とその子供を病院で治療を受ける6人の子どもと30人の親/探索的比較研究	本研究では、Nurse Practitionerが在宅で安全に抗腫瘍薬を静脈内投与することが出来るかを調査した。Nurse Practitionerは十分な訓練を積み、病院の小児腫瘍科医や他のNurse Practitionerと連携することで、患者の在宅で低用量メソトレキセートの投与を安全に実施することができた。Nurse Practitionerが在宅で化学療法をおこなうことで、ほとんどの子どもの生活の質は向上し、親からは社会的負担が軽減したとの報告があった。今回の調査より、Nurse Practitionerは小児腫瘍科医との連携をおこないながらであれば、自宅で安全かつ効率的に化学療法の点滴を行うことが可能であることが証明された。
5 Anne Marie Maloney, Jocelyne Volpe (2005)/The inpatient advanced practice nursing roles in a Canadian pediatric oncology unit/J Pediatr Oncol Nurs/2005/カナダ	小児腫瘍科病棟で働く Nurse Practitioner/活動報告	カナダ、オンタリオ州のThe Hospital for Sick Childrenで勤務するNurse Practitionerの活動を報告する。オンタリオ州で導入されたNurse Practitionerは、当初の研修医の代行という意図を超えて役割が拡大されており、患者の直接ケア以外にも及び、導入当初より病院へ良い影響を与えている。病棟へ入院する子どもや家族へは、質の高いケアを提供しており、病院スタッフへは勉強会を主催するなど学習の機会を与えている。今後は、急性期領域で働くNurse Practitionerの役割の法制化が重要となる。
6 Verna L.Hendricks-Ferguson, Terrah Foster Akard, Jennifer R.Madden, Robyn Levy (2015)/Contributions of advanced practice nurses with a DNP degree during palliative and end-of-life care of children with cancer/J Pediatr Oncol Nurs/アメリカ	終末期・緩和ケア領域における Doctor of Nurse Practitioner/文献レビュー	小児がん患者におけるケアの質の向上、特に緩和ケアは、医療における優先事項の一つである。上級看護師の最終学位である Doctor of Nurse Practitionerによる、小児がん患者のケアの活動や、医療成果を向上するための取り組みを報告する。小児がんの緩和ケアにおいて Doctor of Nurse Practitionerを取得した看護師は患者への直接的なケアだけでなく、包括的ケア（チームアプローチや研究、学際的コミュニケーション等）をおこなえるため、質の高い End of Life ケアをはぐくむことができていた。
7 Joy Christensen, Nur Akcasu (1999)/The role of the pediatric nurse practitioner in the comprehensive management of pediatric oncology patients in the inpatient setting/Journal of Pediatric Oncology Nursing/アメリカ	3次病院で勤務する Nurse Practitioner/活動報告	3次教育病院での Pediatric Nurse Practitionerの活動を挙げ、入院中の小児がん患者を包括的に管理する高度実践看護師の役割について報告する。Pediatric Nurse Practitionerの役割は、よりシームレス（外来・入院と分別しない事による）なケア体験を提供し、小児がん患者への医療提供において重要なリンク（包括的なケア・継続性をもった・総合的な・一貫性な情報）を提供するものである。

Ⅲ. 結果

1. 対象文献

対象文献は1999年が1件、2005年が2件、2009年が1件、2015年が1件、2019年が1件、2021年が1件であった。対象文献は表1に示す。

2. Nurse Practitionerが小児に対して行った実践

対象文献から抽出したデータを分析し、35サブカテ

ゴリー、8カテゴリーを生成した。結果を表2に示す。以下、文中の表記において【 】をカテゴリー、〈 〉をサブカテゴリーとする。また、コードを「 」で示す。

1) 【化学療法に関連した薬剤投与を実施する】のカテゴリー

このカテゴリーでは、〈抗悪性腫瘍薬の正しい用量を確認し安全に投与をおこなう〉〈在宅での抗悪性腫瘍薬

表2. Nurse Practitionerがおこなった実践

カテゴリー	サブカテゴリー（コード数）	文献番号
化学療法に関連した薬剤投与を実施する	抗悪性腫瘍薬の正しい用量を確認し安全に投与を行う（7）	3・4・7
	在宅での抗悪性腫瘍薬やそれに関連した薬剤の投与を行う（4）	3・4
	病棟で患者状態に応じた薬剤の投与を行う（3）	3・5・7
化学療法に関連した診療行為を実施する	在宅で化学療法薬による副作用をアセスメントする（1）	4
	病棟や外来で化学療法に関連した医療処置を行う（5）	7
	病棟や外来で化学療法に関連した症状のアセスメントをする（13）	2・7
小児がん患者へのケアの提供を実施する	入院から退院後までのケア提供と継続性のある健康管理を行う（10）	2・7
	入院患者へ化学療法に関する日常生活のケアを提供する（8）	2・5・7
	患者へ多職種ケアをコーディネートし、ケアを提供する（4）	5・6・7
	入院中の小児がん患者へ緩和ケアを提供する（1）	5
患者の症状の判断を行い、治療を選択する	入院患者への治療薬投与の選択を行う（5）	2・3・4・7
	外来患者の入院の必要性の決定を行う（1）	7
	在宅患者の相談を受け、症状の判断を行う（3）	4・7
	患者の症状をアセスメントし、治療を指示する（3）	5・7
小児がん治療に関連した教育的な関わりを実施する	患者・家族へ化学療法薬に関連した教育的な関わりを行う（3）	3・5
	患者・家族へ生活に関連した教育的関わりを行う（4）	7
	退院後の患者・家族の不安を軽減する関わりを行う（2）	2・3
	看護スタッフへ化学療法薬の投与に関するトレーニングを行う（3）	3
	看護スタッフへ小児がん患者のケアについての勉強会を行う（7）	2・5・7
輸液ポンプの物品管理を行う	治療薬投与のための物品選定を行う（1）	3
	輸液ポンプの物品管理を行う（4）	3
治療に関する情報共有・提供を行い、家族を含めた多職種と連携する	家族を含めた医療チームで、治療や今後の方針の情報共有を行う（5）	3・6・7
	患者や家族が求める疾患や治療に関連した情報提供を行う（6）	7
	コメディカルや外部機関と、治療や患者の情報共有を行う（15）	3・5・6・7
	医師と患者についての情報共有を行い治療方針の確認をする（9）	2・4・7
	看護師・研修医への治療に関する情報提供をおこない、コンサルテーションを行う（1）	2
	高度実践看護師と患者についての情報共有を行う（3）	5・7
	看護師と患者の治療生活における情報共有を行う（2）	5・7
多職種へ患者の治療や日常生活のケアについてコンサルテーションを行う（5）	2・6・7	
学会や国内会議でNurse Practitionerの活動を発表する	学会への参加・発表を行いNurse Practitionerの仕事内容を広報する（2）	3
	学会へ参加し最新の治療方法の情報収集を行う（1）	7
	Nurse Practitionerの活動について執筆活動を行う（1）	7
	研究レビューを行い知見を同僚へ発表する（3）	1・7
	役員や講演会のゲストを務める（1）	7
国内会議に組織代表として参加する（1）	7	

やそれに関連した薬剤の投与をおこなう）〈病棟で患者状態に応じた薬剤の投与をおこなう〉の3個のサブカテゴリーが抽出された。

Nurse Practitionerは「日常的な化学療法患者を包括的に管理（文献7）」し、「処方された化学療法薬の再計算（文献7）」をおこなうことで、〈抗悪性腫瘍薬の正しい用量を確認し安全に投与をおこなう〉ことに貢献していた。投与場所も病院内だけでなく、〈在宅での抗悪性腫瘍薬やそれに関連した薬剤投与〉を実施しており、病院外でも「安全で、効率的で、満足のいくもの（文献4）」であると化学療法に関連した薬剤投与について評価を受けていた。また、抗悪性腫瘍薬による有害事象に対して、「有害事象発生時はガイドラインに沿って患者の症状を分類（文献3）」し、「医師の直接的な指示を受けることなく独自に管理する（文献3）」ことが認められており、〈患者状態に応じた薬剤の投与〉をおこなっていた。

2) 【化学療法に関連した診療行為を実施する】のカテゴリー

このカテゴリーでは、〈在宅で化学療法薬による副作用をアセスメントする〉〈病棟や外来で化学療法に関連した医療処置をおこなう〉〈病棟や外来で化学療法に関連した症状のアセスメントをする〉の3個のサブカテゴリーが抽出された。

Nurse Practitionerは「毎日の回診、スタッフナースや研修医からの申し送りをうけ（文献2）」たり、「化学療法を受けている患者を担当する（文献7）」ことで、〈病棟や外来で化学療法に関連した症状のアセスメント〉をおこなっている。また、アセスメントを踏まえ、「プロトコールに従った制吐剤や血液製剤、抗生物質、輸液のオーダー（文献7）」や「骨髄生検や髄腔内注射などの治療の処置（文献7）」をおこない、〈病棟や外来で化学療法に関連した医療処置〉をおこなっていた。病院以外でも、「子ども達を自宅で診察（文献4）」することで、〈在宅で化学療法薬による副作用をアセスメント〉していた。

3) 【小児がん患者へのケアの提供を実施する】のカテゴリー

このカテゴリーでは、〈入院から退院後までのケア提

供と継続性のある健康管理をおこなう〉〈入院患者へ化学療法に関する日常生活のケアを提供する〉〈患者へ多職種のケアをコーディネートし、ケアを提供する〉〈入院中の小児がん患者へ緩和ケアを提供する〉の4個のサブカテゴリーが抽出された。

Nurse Practitionerは「新規にがんと診断を受けた子ども達のケアの調整（文献2）」や「治療、看護の経験を活かした指導や医学管理、アドボカシーをおこなう（文献7）」ことで、〈入院から退院後までのケア提供と継続性のある健康管理〉をおこなっている。日常生活においても、「子どものケアに関する家族からの電話に対応（文献7）」したり、「病歴や身体検査にて治療毒性の評価（文献7）」をおこなったりすることで、〈化学療法に関する日常生活のケアを提供〉している。また、〈患者へ他職種のケアをコーディネート〉することで、「複雑な医学的・心理・社会的ニーズを持つ子どもや家族のケア（文献5）」を実施することができている。「入院施設のNurse Practitionerは様々ながん患者をケア（文献5）」しており、〈入院中の小児がん患者へ緩和ケアを提供する〉こともある。

4) 【患者の症状の判断を行い、治療を選択する】のカテゴリー

このカテゴリーでは、〈入院患者への治療薬投与の選択をおこなう〉〈外来患者の入院の必要性の決定をおこなう〉〈在宅患者の相談を受け、症状の判断をおこなう〉〈患者の症状をアセスメントし、治療を指示する〉の4個のサブカテゴリーが抽出された。

Nurse Practitionerは化学療法をおこなっている子どもに対して「プロトコールに基づいた入院指示書の作成、包括的な医療ケアなどを担当（文献7）」し、〈患者の症状をアセスメントし、治療を指示〉している。入院患者を診察し、「治療による有害事象の重症度から化学療法実施の可否の判断（文献4）」をおこなう権利を持っており、〈患者への治療薬投与の選択〉をおこなっていた。また、「外来診療では、Nurse Practitionerの役割として患者のルーチンフォローアップが含まれ（文献7）」しており、〈外来患者の入院の必要性の決定〉をおこなっていた。更には、「地域の診療所から送られてくる患者検査値を確認（文献7）」し、「医学的処置が必要と判断すると、入院を決定する（文献7）」といった〈在

宅患者の相談を受け症状の判断）をもおこなっていた。

5)【小児がん治療に関連した教育的な関わりを実施する】
の 카테고리

このカテゴリでは、〈患者・家族へ化学療法薬に関連した教育的な関わりをおこなう〉〈患者・家族へ生活に関連した教育的関わりをおこなう〉〈退院後の患者・家族の不安を軽減する関わりをおこなう〉〈看護スタッフへ化学療法薬の投与に関するトレーニングをおこなう〉〈看護スタッフへ小児がん患者のケアについての勉強会をおこなう〉の5個のサブカテゴリが抽出された。

Nurse Practitionerは「治療前のICに参加し、化学療法薬の問題点を説明する（文献3）」ことで、〈患者・家族へ化学療法薬に関連した教育的な関わり〉をおこなっている。患者や家族の治療生活には、「話を聞き、疑問や不安を解消しながら指導（文献7）」をおこなうことで、〈生活に関連した教育的関わり〉を実施している。退院時には「教育用パンフレットを手渡す（文献3）」ことで、〈退院後の患者・家族の不安を軽減する関わり〉をもおこなっている。また、病院スタッフに対しても「輸液の管理作業をともにおこなう（文献3）」ことで、〈看護スタッフへ化学療法薬の投与に関するトレーニング〉をおこなっている。「看護師同僚への公式・非公式の指導（文献5）」や「化学療法・基礎腫瘍学・高度腫瘍学等の授業の提供（文献7）」をおこなうなど、〈看護スタッフへ小児がん患者のケアについての勉強会〉を実施することで教育的に関わっている。

6)【輸液ポンプの物品管理をおこなう】の 카테고리

このカテゴリでは、〈治療薬投与のための物品選定をおこなう〉〈輸液ポンプの物品管理をおこなう〉の2つのサブカテゴリが抽出された。

Nurse Practitionerは、「薬剤を安全に注入するための最適な機能と性能をもつ輸液ポンプを選定（文献3）」し、〈治療薬投与のための物品選定〉をおこなっている。また、選定した輸液ポンプの「管理プロトコルの開発を監修（文献3）」することで、〈輸液ポンプの物品管理〉をおこなっている。

7)【治療に関する情報共有・提供をおこない、家族を含めた多職種と連携する】の 카테고리

このカテゴリでは、〈家族を含めた医療チームで、治療や今後の方針の情報共有をおこなう〉〈患者や家族が求める疾患や治療に関連した情報提供をおこなう〉〈コメディカルや外部機関と、治療や患者の情報共有をおこなう〉〈医師と患者についての情報共有を行い治療方針の確認をする〉〈看護師・研修医への治療に関する情報提供をおこない、コンサルテーションをおこなう〉〈高度実践看護師と患者についての情報共有をおこなう〉〈看護師と患者の治療生活における情報共有をおこなう〉〈多職種へ患者の治療や日常生活のケアについてコンサルテーションをおこなう〉の8個のサブカテゴリが抽出された。

Nurse Practitionerは初回診断時の「医師・患者・家族とのICに参加（文献3）」し、〈家族を含めた医療チームで、治療や今後の方針の情報共有をおこなう〉。「説明する内容として、病気の病態生理、治療の流れ、化学療法による副作用など（文献7）」、〈患者や家族が求める疾患や治療に関連した情報提供〉をおこない、「必要に応じて、栄養、理学療法、ソーシャルワーカーなどを適切に紹介（文献7）」し、〈コメディカルや外部機関と治療や患者の情報共有〉をおこなっている。また、「化学療法の実施前に医学的な問題を抱えている患児に対して担当医と相談（文献7）」したり、「電子カルテで報告（文献4）」したりすることで、〈医師と患者についての情報共有をおこない治療方針の確認をする〉ことや、「小児科の看護リーダー、看護教育担当者と相談・協議（文献5）」をおこなっている。さらに、〈看護師と患者の治療生活における情報共有〉や、「入院と外来間の患者ケアのスムーズな移行を促進する（文献5）」ために〈高度実践看護師と患者について情報共有〉おこなっている。

他にも、「毎日の回診で小児科の看護師や研修医との相談役になる（文献2）」ことで、〈治療に関する情報提供をおこない、コンサルテーション〉を実施したり、「症状管理についてチームメンバーとの話し合いを促進するのに適した立場である（文献6）」ことより、〈多職種へ患者の治療や日常生活のケアについてコンサルテーションをおこな〉ったりすることもある。

8)【学会や国内会議でNurse Practitionerの活動を発表する】のカテゴリー

このカテゴリーでは、〈学会への参加・発表を行いNurse Practitionerの仕事内容を広報する〉〈学会へ参加し最新の治療方法の情報収集をおこなう〉〈Nurse Practitionerの活動について執筆活動をおこなう〉〈研究レビューを行い知見を同僚へ発表する〉〈役員や講演会のゲストを務める〉〈国内会議に組織代表として参加する〉の6個のサブカテゴリーが抽出された。

Nurse Practitionerは「医療・看護系の学会に演者として参加し、その成果を全国規模の学会で発表（文献3）」することで、〈Nurse Practitionerの仕事内容を広報〉している。「腫瘍委員会に所属し、治療開発に向けたデータ収集をおこなう（文献7）」ことで、〈最新の治療方法の情報収集〉をおこなっている。これらの集めた情報で〈研究レビューや発表を同僚へおこなう〉ことで「治療効果の問題や倫理的、法的問題を検討し、治療の長期的な影響についての認識（文献1）」を広め、患者支援体制の構築に取り組んでいる。

また、「Nurse Practitionerが管理する中心静脈カテーテルや好中球減少患者などの様々な事象に関しての解説書（文献7）」や、〈Nurse Practitionerの活動について執筆活動〉をおこなっている。〈役員や講演会のゲストを務め（文献7）〉たり、〈国会に組織代表として参加（文献7）〉したりすることもあり、活動は多岐に渡っている。

IV. 考察

1. 化学療法に関連した薬剤投与、診療行為をおこなう

Nurse Practitionerは、病棟で治療を受ける患者に対して、プロトコールに従った化学療法に関連した薬剤投与をおこなっていた。地域によっては在宅で治療を受けることを選択した小児がん患者へ、低用量の抗悪性腫瘍薬投与を実施しているNurse Practitionerも存在していた。また、化学療法に関連した診察を実施することで、抗悪性腫瘍薬による有害事象を把握し、患者に必要な検査や治療を医師と連携しておこなっていた。

国内では、2015年に「特定行為に係る看護師の研修制度」が開始されているが、化学療法に関連した薬剤投与は認められていない。小児領域でおこなわれた実践の

報告では、診療看護師（NP）にて臨時薬の処方準備をおこない、医師の診察前に情報収集、身体診察を実施することで医師と看護師の連携や業務の負担の軽減につながるよう活動⁶⁾していた。海外と日本では、実際の薬剤投与をおこなうかの差異はあるものの、診察を実施することで患者の正確な状態把握に努め、医師と連携した処置をおこなう点は共通していた。

2. ケアの提供を実施する

Nurse Practitionerの小児がん患者へのケアの提供は、がんと診断された時点から開始し、退院まで継続しておこなっていた。また、患者・家族の疑問や不安を解決できるように生活指導をおこなうことで、小児がん治療に関連した教育的な関わりをもっていた。

国内では、小児がん患者へのケアに関する診療看護師（NP）の報告は認められなかった。しかし、急性期型の総合病院で勤務する診療看護師（NP）は、急性期看護と慢性期看護の両方について質を保ち継続したケアを提供できるようにすることが役割と考えており、小児科外来や病棟で活動をおこなっていた。また、在宅療養児への支援として、医学的な管理や日常のケアなどについて、あらかじめ作成したパンフレットを用いて説明をおこなっていた⁷⁾。松本は診療看護師（NP）のおこなうケアについて、看護実践で培った視点に加え医学的知識・技術を持ってケアをおこなうことが診療看護師（NP）による看護実践の特徴⁸⁾と述べており、患者にとって、安全で、質の高いケアが提供されていることが考えられた。

3. 患者の症状の判断を行い、治療を選択する

Nurse Practitionerは、病棟や外来、在宅などあらゆる場面で患者から相談を受け、問診や身体診察をおこなうことで患者の症状の判断、治療や物品を選択・決定していた。患者の症状によっては入院や治療の延期を判断したり、必要な薬剤や検査を指示したりすることで、その後の円滑な治療へつなげていた。

日本の診療看護師（NP）の裁量権の範囲は法的に位置づけられておらず、医師の直接指示や特定行為の手順書などの包括的指示書によって、特定行為を含めた看護実践をおこなっている。退院後に訪問指導をおこなっている診療看護師（NP）は、在宅患者の全身状態や生活

環境の変化を評価し、患者の包括的指示によって定められた範囲内の水分量の増量を判断していた。また、薬剤投与量も導入開始時期と在宅移行後で体重変化があることに着目し、投与量の調節を医師へ提案し、了解を得ていた⁹⁾。診療看護師（NP）は独自で患者の診断をおこない、治療を決定することは現行制度上不可能である。しかし、包括的な指示の範囲内で治療を選択し、医師へ患者の状態を踏まえた治療方針を提案することで、タイムリーな治療につながっていると考える。

4. 多職種との連携

Nurse Practitionerは、治療説明時に同席し、患者や家族の求める情報を提供していた。また、医療者間カンファレンスへも参加し、患者の代弁者として、医療チームへ治療に関する情報共有・提供をおこない、家族も含めた多職種と連携することができていた。病院外では、地域の医療機関とも連携し、患者情報の共有をすることで、退院後の患者や家族が疑問や不安を解消して自宅で過ごせるように働きかけていた。

国内での報告によると、診療看護師（NP）は在宅療養を支える在宅支援チームの一員として小児専門看護師と協働しながら活躍の場を広げていた⁹⁾。退院直後の訪問指導を行うことで、地域の医療施設や関係者と切れ目のない連携システムの構築に寄与していると考えられる。また、菅谷の報告では、多職種との連携において、対象児の病態や診療方針、必要なケアなど、医師や看護師の説明を補完する⁷⁾ことで、各職種がその専門性を最大限に発揮でき、チーム医療が円滑におこなわれるよう努めていた。海外のNurse Practitionerと同様に、多様な現場へ介入していくことで、各専門職の調整役としての働きや、患者の立場に立った意見の主張をおこない、患者がより良い医療やケアを受けられるように尽力していると考えられる。

5. 病院外での活動

Nurse Practitionerは、学会や国内会議で活動を発表し、執筆活動をおこなうことで、仕事内容を広報していた。また、役員や講演会のゲストを務めたり、国会へ組織代表として参加したりと幅広い分野で積極的な活動をおこなっていた。

国内の診療看護師（NP）は、外部施設に対して小児

看護・重症心身障害・診療看護師（NP）の講義などの教育的活動をおこない、診療看護師（NP）の活動報告などの啓発活動もおこなっていた¹⁰⁾。これらの活動は、臨床現場における実践教育としての効果以外にも、後進の育成としての効果も期待されていると考える。

海外、日本ともに広報活動は行っているが、日本の診療看護師（NP）の認知は現在のところ不十分であり、我が国の多くの診療看護師（NP）が病院内・外問わずに自身の役割について周知する活動をおこなっていた。高野は、診療看護師（NP）の課題として、看護の質を向上させるための活動を探求することや、診療看護師（NP）が認知され、診療看護師（NP）に対する理解が進むような活動をすること¹¹⁾と述べている。診療看護師（NP）の活動がコスト効果にあるという研究成果を報告することや、診療報酬の認定を受けられるように活動することが、世間での存在意義を高めることに繋がると考えられ、そのためには、研究を積み重ねて結果を出すことが重要である。

6. 小児がん患者に期待される国内の診療看護師（NP）の役割

小児がんの治療成績は、近年の医療の進歩により、全体として70～80%が治癒するようになってきた¹²⁾。宮城島は、長期的な身体的影響を踏まえ、発達過程に伴うライフイベントを含めた生活構築・調整できるような支援が必要¹³⁾と述べている。これらより、小児がん患者に関わる看護師は、治療終了後の長期的な経過をたどる患者やその家族に対して、継続的な関わりが求められていることがわかる。

今まで述べてきた国内の報告では、海外のNurse Practitionerと比較して、教育・制度上で可能な診療行為に差が見られるものの、患者へ対して質の高い医療やケアを提供できるように、医師と連携して活動している点が強調されていた。さらに、入院中の患者情報の共有や、退院後の在宅療養を支えるため、多職種との連携をはかり、円滑なチーム医療がおこなわれるよう取り組んでいた。小児がん患者へ対する診療看護師（NP）の実践報告は認めなかったが、入院中から退院後まで患者を支える診療看護師（NP）の活動は、小児がん患者に対しても実践されるものと考えられる。また、厚生労働省は、「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」を重

点的に取り組むべき課題¹⁴⁾として位置付けている。がん患者とその家族は、診断早期からがん治療と同時に、身体的症状の緩和や心理的な問題などへの援助を求めており、これらは、小児がん患者に対する診療看護師（NP）の働きとして期待される役割の一つと考える。

今回、海外文献を通して小児がん患者のケアにおける国内の診療看護師（NP）の役割を検討した。今後、期待された役割に対して実際におこなえた活動を病院内外に広報していくことで、小児がん診療に対する診療看護師（NP）の存在感が強まると考えられる。廣瀬は、診療看護師（NP）の役割は、開拓者として研究活動を通して、その役割と存在意義、診療看護師（NP）がおこなう看護実践の安全性を明確にしていくことが課題であり、使命である¹⁵⁾と述べている。研究活動を積み重ね、診療看護師（NP）の活動の場が広がることで、多様な患者のニーズに応え、患者QOLの向上に繋がればよいと考える。

V. 結語

わが国の小児がん患者に対する診療看護師（NP）の役割を検討するため、本研究では海外の小児がん患者への実践をおこなうNurse Practitionerについての文献を分析した。分析の結果、Nurse Practitionerがおこなった実践について、35サブカテゴリーと8カテゴリーが抽出され、医療的処置や診療行為にとどまらず、患者やスタッフへの教育的な関わりや、多職種連携、活動の広報などが挙げられた。

海外のNurse Practitionerとわが国の診療看護師（NP）は、教育や制度が異なり、可能な診療行為に差が見られるため、単純に実践を比較することは困難である。また、診療看護師（NP）の小児がん患者に対する活動報告は見当たらなかったが、小児に対する活動としては、海外のNurse Practitionerと同様に質の高い医療やケアを提供できるように努めている点は共通していた。

小児がん患者におけるわが国の診療看護師（NP）の役割として、がん治療における高度な医療的知識や技術を伴い、入院から退院後まで継続して患者を支えることが期待される。

VI. 利益相反

本研究において利益相反は存在しない。

VII. 引用文献

- 1) 国立研究開発法人国立がん研究センター, がん情報サービス (がん統計) 小児がんの患者数. https://ganjoho.jp/public/life_stage/child/patients.html (検索日: 2022年7月17日)
- 2) 厚生労働省. がん対策推進基本計画 (第3期). <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000183313.html> (検索日: 2022年7月17日)
- 3) 厚生労働省, 令和2年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況. https://www.mhlw.go.jp/toukei/sai kin/hw/ishi/20/dl/R02_kekka-1.pdf (検索日: 2022年7月17日)
- 4) 厚生労働省, 第1回医師等医療機関職員の働き方改革推進本部 資料. https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08137.html (検索日: 2022年7月17日)
- 5) 森美智子: 小児がんを含むがん診療に関するNurse Practitioner (NP) の教育到達目標—日本の医師・看護師と米国NPとの比較—. 日本小児血液がん学会誌 55 (2): 187-193, 2018.
- 6) 後藤愛: 特定行為に係る看護師の研修制度を小児領域でどう活かすか. 小児看護 39 (11): 1452-1455, 2016.
- 7) 古賀寛史, 廣田真里, 菅谷愛美: 別府医療センターにおけるNPの研修と成果. 小児看護 39 (12): 1590-1595, 2016.
- 8) 松本佳代: 米国において小児領域に従事するNurse Practitionerの臨床推論の過程および看護実践に関する文献検討. 日本NP学会 5 (2): 19-30, 2021.
- 9) 玉井保子, 黒木雪絵: 総合病院における小児NPの活動と成果. 小児看護 39 (13): 1693-1698, 2016.
- 10) 後藤愛, 高野政子, 佐藤圭右: 重症心身障碍児 (者) 施設における診療看護師 (NP) の成果. 看護研究

- 48 (5): 459-462, 2015.
- 11) 高野政子, 橋本志乃:小児NP活動に対する看護師・スタッフの満足度とNPへの期待. 日本NP学会誌 4 (2): 31-39, 2020.
- 12) 国立研究開発法人国立がん研究センター がん情報サービス, 小児がんについて. https://ganjoho.jp/public/knowledge/about_childhood.html (検索日: 2022年7月17日)
- 13) 宮城島恭子, 大見サキエ, 高橋由美子:小児がん経験者が病気をもつ自分と向き合うプロセス—思春期から成人期にかけて病気を自身の生活と心理面に引き受けていくことに着目して—. 日本看護研究学会雑誌 40 (5): 747-757, 2017.
- 14) 厚生労働省, がん対策推進基本計画 (第2期). https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/gan_keikaku02.pdf (検索日: 2022年12月10日)
- 15) 廣瀬久美:急性期病院における診療看護師の実践報告. 日本糖尿病教育・学会誌 24 (2) 121-125, 2020.

Abstract

【Objective】

The present study aimed to clarify the nursing practices and roles of pediatric nurse practitioners (PNPs) working with pediatric cancer patients overseas. By doing so, we will elucidate the roles of PNPs caring for pediatric cancer patients in Japan.

【Methods】

Using the CINAHL with Full Text and PubMed databases, we searched the international literature published between 1995 and 2021 and extracted 7 publications. From these publications, we extracted the descriptions that corresponded to the practices of PNPs for pediatric cancer patients, and used them as codes. Based on the extracted codes, we analyzed them with two pediatric nurse researchers to create subcategories and categories.

【Results】

The results of the analysis revealed the following codes: “administers chemotherapy-related medications,” “performs chemotherapy-related medical procedures,” “provides care to pediatric cancer patients,” “determines patient symptoms and selects treatment,” “provides educational involvement related to pediatric cancer treatment,” “manages infusion pump supplies,” “shares and provides information related to treatment”, “shares and provides information on treatment and collaborates with multiple professions, including family members”, and “presents PNP activities at academic conferences and national meetings”.

【Conclusion】

The nursing practices and roles of PNPs working with pediatric cancer patients overseas were not limited to medical procedures and medical treatment, but were diverse. PNPs working with pediatric cancer patients in Japan are expected to utilize advanced medical knowledge and skills in cancer treatment and support patients continuously from hospitalization to post-discharge.

Key Words : pediatric medicine, nurse practitioner, pediatric cancer, nursing practice, role